

200925014B (1/2)

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

切除可能膵胆道領域がんに対する補助療法の研究

平成 19 年度～平成 21 年度 総合研究報告書
(1/2)

研究代表者 小菅智男

平成 22 (2010) 年 4 月

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

切除可能膵胆道領域がんに対する補助療法の研究

平成 19 年度～平成 21 年度 総合研究報告書

(1/2)

研究代表者 小菅 智 男

平成 22 (2010) 年 4 月

目 次

I.総合研究報告書	
切除可能膵胆道領域がんに対する補助療法の研究	1
II.研究成果の刊行に関する一覧表	25
III.研究成果の刊行物・別刷	44

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
総合研究報告書

切除可能膵胆道領域がんに対する補助療法の研究

研究代表者 小菅 智男 国立がんセンター中央病院副院長

研究要旨

切除可能膵胆道がんに対する有効な補助療法の確立を目的として多施設共同の臨床試験を計画した。平成19年度に「膵がん切除例に対する術後補助療法としてのゲムシタビンとS-1併用療法(GS療法)の第Ⅰ/Ⅱ相試験」の研究実施計画書を策定した。平成20-21年度に第Ⅰ・Ⅱ相試験を完了し、第Ⅲ相試験を実施するために必要な準備を整えた。

研究分担者

松山裕 東京大学大学院医学系
研究科准教授
上野秀樹 国立がんセンター中央
病院医員
江川新一 東北大学大学院医学系
研究科准教授
宮崎勝 千葉大学大学院医学
研究院教授
羽鳥隆 東京女子医科大学
講師
斎浦明夫 癌研有明病院部長
杉山政則 杏林大学医学部教授
飛田浩輔 *1東海大学医学部講師
今泉俊秀 *2東海大学医学部教授
中尾昭公 名古屋大学大学院医学
研究科教授
土井隆一郎 京都大学大学院医学
研究科准教授
永野浩昭 *4大阪大学大学院医学系
研究科准教授
門田守人 *3大阪大学副学長
島田光生 徳島大学大学院教授
田中雅夫 九州大学大学院医学
研究院教授
馬場秀夫 熊本大学医学部教授
千々岩一男 宮崎大学医学部教授

中森正二 大阪医療センター統括
診療部長

鈴木康之 香川大学医学部教授
船越顕博 九州がんセンター医長
山口幸二 産業医科大学教授
山本順司 防衛医科大学校教授

*1平成21年4月～平成22年3月

*2平成19年4月～平成21年3月

*3平成21年4月～平成22年3月

*4平成19年4月～平成21年3月

A. 研究目的

代表的な難治がんのひとつである膵胆道がんは、死亡数が年々増加しており、有効な治療法を確立することはがん対策における重要な課題である。診断法の進歩により、切除可能な段階で発見される症例は増加しつつあるが、治療成績は未だに不良である。膵胆道がんの切除例に対してはこれまで様々な集学的治療が試みられてきたのにもかかわらず、その有用性についてのエビデンスが乏しく、標準的な治療法は確立していなかった。

そこで、本研究グループでは、2001年4月にゲムシタビンが膵がんに対する化学療法剤として保険適用となった

のを機会に、ゲムシタビンの補助化学療法剤としての有用性を評価するための多施設共同無作為化比較試験を開始し、平成19年度に最終解析の結果を報告した。ヨーロッパでもこの研究に類似した臨床試験が行われて同様な結果が得られた。これらの結果により、膵がんに対してはゲムシタビンを用いた補助化学療法は実質的な標準治療として取り扱われるようになった。しかしながら、補助療法による全生存期間の延長効果はわずかであり、より効果の高い治療法が望まれている。2006年8月に膵がんに対する保険適用が承認されたS-1は膵胆道がんの有効な数少ない化学療法剤のひとつとして期待を持たれており、2007年には胆道がんに対する適応も認められた。そこで、膵胆道がんを対象に、S-1を取り入れた補助化学療法の有用性を検証するための臨床研究を計画した。

B. 研究方法

切除可能膵がんに対する術後補助化学療法としてゲムシタビンとS-1の併用療法(GS療法)の有用性を検討するため、以下の研究実施計画に従い、症例の収集と結果の解析を行う。

試験の概要：

1) 表題：膵がん切除例に対する術後補助療法としてのゲムシタビンとS-1併用療法(GS療法)の第Ⅰ/Ⅱ相試験

2) 目的：

第Ⅰ相部分：膵がん切除例に対する術後補助療法としてのGS療法の毒性を評価し、投与量規制毒性(DLT)の発現頻度により第Ⅱ相試験における推奨用量を決定する。

第Ⅱ相部分：膵がん切除例に対する術後補助療法としてのGS療法の有効性

と安全性を評価する。

3) 評価項目

第Ⅰ相部分：

主要評価項目：DLTの発現頻度

第Ⅱ相部分：

主要評価項目：全生存期間

副次的評価項目：有害事象、無病生存期間

4) 対象：浸潤性膵管がん肉眼的治癒切除例(R0、R1)

5) 薬剤の投与量：

第Ⅰ相部分：

- ・S-1とゲムシタビンの投与量はレベル0からレベル2の3段階を設定する。
- ・2週を1コースとして12コース投与を継続する。
- ・レベル1より投与を開始して、各レベル6例を登録し、DLTの発現頻度より推奨用量を決定する。

第Ⅱ相部分

- ・第Ⅰ相部分において推奨用量と決定された投与量レベルを用いる。

6) 予定参加者数：

第Ⅰ相部分：各投与量レベル6例

第Ⅱ相部分：55例(第Ⅰ相部分の同レベルの患者も含む)

胆道がんについては膵がんよりもエビデンスの乏しい現状を鑑み、臨床試験に関する情報を収集し、実行可能で意味のある臨床試験の検討を進める。

(倫理面への配慮)

臨床研究に関する倫理指針に則り、研究を計画・実行する。臨床試験の内容については参加施設毎に倫理審査委員会の承認を得る。

C. 研究結果

平成19年度に研究実施計画書を策定し、各施設の倫理審査委員会から承認

を得た。平成20年4月から第Ⅰ相試験を開始し、平成21年2月までに完了した。これにより、第Ⅱ相部分での投与量をレベル0と決定し、平成21年2月24日から第Ⅱ相部分の症例登録を開始した。症例集積は順調に進み、平成21年9月24日に症例登録を締め切った。全登録症例数は61例で、このうち第Ⅱ相部分は55例となった。レベル0での安全性は許容範囲内であることが確認された。

胆道がんの補助療法については、世界の状況も含めて検討した結果、他の研究組織との協力が必須であるという結論に至った。

D. 考察

切除可能膵がんに対する術後補助療法については、ゲムシタビン単剤による化学療法が実質的な標準治療として扱われるようになった。しかしながら、補助療法による全生存期間の延長効果はわずかであり、より効果の高い治療法が望まれている。2006年8月に膵がんに対する保険適応が認可されたS-1は数少ない化学療法剤のひとつとして期待を持たれており、非切除膵がん症例での臨床試験が進められている。そこで、ゲムシタビン単剤の化学療法よりも高い効果を期待して、ゲムシタビンとS-1の併用化学療法（GS療法）について臨床試験を計画した。当初は第Ⅲ相試験としてゲムシタビン単剤による補助化学療法との比較試験を検討した。しかし、非切除症例に対する臨床試験の結果、GS療法はゲムシタビン単剤に比べて、効果は高いものの有害事象の程度や頻度も高いことが示唆された。補助化学療法では通常の化学療法に比べて安全性が特に重要であるため、

これを考慮して第Ⅰ相試験から行うことに計画を変更した。実際、第Ⅰ相部分ではレベル1で規定数のDLTが発生し、レベル0が第Ⅱ相部分での用量と決定された。第Ⅱ相部分は順調に実施され、最終的にこの用量での安全性が確認された。これにより、本レジメンを用いた第Ⅲ相試験を行うための基盤が整った。

胆道がんの補助療法については、本研究班の参加施設で実施可能であり、しかも意義のある研究計画について検討を続けてきた。しかし、胆道がんに関しては症例集積の困難さが最大の問題点であり、他の研究組織と協力して試験を計画する必要があるとの結論に達した。

膵胆道外科の領域では、化学療法の臨床試験に精通した施設は限られているため、こうした取り組みを全国規模の多施設共同研究として行なうことは、がん医療の均てん化にも資するものと考えている。

E. 結論

膵がんの補助療法に関しては、GS療法に関する第Ⅰ・Ⅱ相試験を完了し、第Ⅲ相試験を実施するために必要な準備を整えた。胆道がんの補助療法について有用な臨床試験を行うためには、大規模な研究組織を構築する必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表 外国語論文

- 1) Deguchi Y, Kosuge T, et al. Pancreaticojejunostomy with invagination of the punched pancreatic remnant after medial pancreatectomy and enucleation for multiple metastases of renal cell carcinoma: report of a case. *Surg Today*. 39:1086-90,2009.
- 2) Nara S, Kosuge T, et al. Clinical s

- ignificance of frozen section analysis during resection of intraductal papillary mucinous neoplasm: should a positive pancreatic margin for adenoma or borderline lesion be resected additionally? *J Am Coll Surg.* 209:614-21, 2009.
- 3) Nara S, Kosuge T, et al. Preoperative evaluation of invasive and noninvasive intraductal papillary-mucinous neoplasms of the pancreas: clinical, radiological, and pathological analysis of 123 cases. *Pancreas* 38:8-16, 2009.
 - 4) Yamamoto Y, Kosuge T, et al. Reconstruction of the portal and hepatic veins using venous grafts customized from the bilateral gonadal veins. *Langenbecks Arch Surg.* 394:1115-1121, 2009.
 - 5) Hibi T, Kosuge T, et al. Synuclein-gamma is closely involved in perineural invasion and distant metastasis in mouse models and is a novel prognostic factor in pancreatic cancer. *Clin Cancer Res.* 15:2864-2871, 2009.
 - 6) Shimada K, Kosuge T, et al. Slow growth of small pancreatic carcinoma with a 20-month follow-up. *Pancreas.* 38:346-349, 2009.
 - 7) Sakamoto Y, Kosuge T, et al. Roux-en-Y reconstruction using staplers during pancreaticoduodenectomy: results of prospective preliminary study. *Surg Today* 39:32-37, 2009.
 - 8) Yamamoto K, Matsuyama Y, et al. Significance of alpha-fetoprotein and des-gamma-carboxy prothrombin in patients with hepatocellular carcinoma undergoing hepatectomy. *Annals of Surgical Oncology* 16:2795-2804, 2009.
 - 9) Ueno H, Kosuge T, Matsuyama Y, Yamamoto J, Nakao A, Egawa S, Doi S, Monden M, Hatori T, Tanaka M, Shimada M, Kanemitsu K. A randomised phase III trial comparing gemcitabine with surgery-only in patients with resected pancreatic cancer: Japanese Study Group of Adjuvant Therapy for Pancreatic Cancer. *Br J Cancer*, 101(6):908-915, 2009.
 - 10) Ueno H, et al. Homozygous CDA*3 is a major cause of life-threatening toxicities in gemcitabine-treated Japanese cancer patients. *Br J Cancer*, 100(6):870-873, 2009.
 - 11) Morizane C, Ueno H, et al. A phase II study of S-1 on gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer. *Cancer Chemother Pharmacol*, 63(2):313-319, 2009.
 - 12) Hashimoto K, Ueno H, et al. Do recurrent and metastatic pancreatic cancer patients have the same outcomes with gemcitabine treatment? *Oncology*, 77(3-4):217-223, 2009.
 - 13) Seki Y, Ueno H, et al. Four cases of pancreatic acinar cell carcinoma treated with gemcitabine or S-1 as a single agent. *Jpn J Clin Oncol*, 39(11):751-755, 2009.
 - 14) Soeda A, Ueno H, et al. Regular dose of gemcitabine induces an increase in CD14+ monocytes and CD11c+ dendritic cells in patients with advanced pancreatic cancer. *Jpn J Clin Oncol*, 39(12):797-806, 2009.
 - 15) Sato Y, Ueno H, et al. A new statistical screening approach for finding pharmacokinetics-related genes in genome-wide studies. *Pharmacogenomics J*, 9(2):137-146, 2009.
 - 16) Matsubara J, Ueno H, et al. Identification of a predictive biomarker for hematologic toxicities of gemcitabine. *J Clin Oncol*, 27(13):2261-2268, 2009.
 - 17) Iida A, Miyazaki M, et al. Does Prolonged Biliary Obstructive Jaundice Sensitize the Liver to Endotoxemia? *Shock* 31:397-403, 2009.
 - 18) Kawamoto J, Miyazaki M, et al. Preoperative GATA3 mRNA Expression in Peripheral Blood Mononuclear Cells is Up-Regulated in Patients With Postoperative Infection

- on Following Hepatobiliary Pancreatic Surgery. *J Surg Res* 152: 118-127, 2009.
- 19) Hirono S, Saiura A, et al. Molecular markers associated with lymph node metastasis in pancreatic ductal adenocarcinoma by genome-wide expression profiling. [Epub ahead of print]. *Cancer Sci*, 2009.
 - 20) Koga R, Saiura A, et al. Clamp-crushing pancreas transection in pancreatoduodenectomy. *Hepatogastroenterology* 56:89-93, 2009.
 - 21) Su Z, Saiura A, et al. Factors influencing infectious complications after pancreatoduodenectomy. [Epub ahead of print]. *J Hepatobiliary Pancreat Surg*, 2009
 - 22) Sugiyama M, et al. Secure placement of a peripancreatic drain after adistal pncreatectomy. *Am J Surg* 199:178-182, 2010.
 - 23) Shikano T, Nakao A, et al. Middle pancreatectomy: Safety and long-term results. *Surgery* 147:21-29, 2010.
 - 24) Kato K, Nakao A, et al. Prognostic factors for survival after extended pancreatectomy for pancreatic head cancer: influence of resection margin status on survival. *Pancreas* 38:605-612, 2009.
 - 25) Nakao A, et al. Pancreatic head resection with segmental duodenectomy for pancreatic neoplasms. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 2009 [Epub ahead of print]. 2009.
 - 26) Kanai M, Doi R, et al. A history of smoking is inversely correlated with the incidence of gemcitabine-induced neutropenia. *Ann Oncol* 20:1397-401, 2009.
 - 27) Nagai K, Doi R, et al. Prognostic value of metastin expression in human pancreatic cancer. *J Exp Clin Cancer Res* 28:9, 2009.
 - 28) Nagai K, Doi R, et al. Single-institution validation of the international consensus guidelines for treatment of branch duct intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 16:353-8, 2009.
 - 29) Morine Y, Shimada M, et al. Usefulness of gemcitabine combined with 5-fluorouracil and cisplatin (GFP) in patients for advanced biliary tract carcinoma. *Hepatogastroenterology*. 56:307-312, 2009.
 - 30) Fujita H, Tanaka M, et al. Tumorstromal interactions with direct cell contacts enhance proliferation of human pancreatic carcinoma cells. *Cancer Sci* 100:2309-2317, 2009.
 - 31) Nakamura M, Tanaka M, et al. Long-term Outcome of Immunotherapy for Patients with Refractory Pancreatic Cancer. *Anticancer Res* 29:831-836, 2009.
 - 32) Nakata K, Tanaka M, et al. LMO2 is a novel predictive marker for a better prognosis in pancreatic cancer. *Neoplasia* 11:712-719, 2009.
 - 33) Hirota M, Baba H, et al. Spleen and gastrosplenic ligament preserving distal pancreatectomy under a minimum incision approach assisted by laparoscopy. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 16:792-5, 2009.
 - 34) Harao M, Baba H, et al. Whole stomach and spleen preserving total pancreatectomy : a new surgical technique for pancreatic cancer. *Hepatogastroenterol* 56:1549-51, 2009.
 - 35) Ozaki N, Baba H, et al. Serine protease inhibitor kazal type 1 promotes proliferation of pancreatic cancer cells through the epidermal growth factor receptor. *Mol Cancer Res* 7:1572-1580, 2009.
 - 36) Chijiwa, K., et al. Prospective Randomized Controlled Study of Gastric Emptying Assessed by ¹³C-Acetate Breath Test After Pylorus-Preserving Pancreaticoduodenectomy. Comparison between Antecolic and Vertical Retrocolic Duodenojejunost

- omy. *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery* 16:49-55, 2009.
- 37) Akita H, Nakamori S, et al. Significance of RRM1 and ERCC1 expression in resectable pancreatic adenocarcinoma. *Oncogene* 28:2903-2909, 2009.
- 38) Hirono S, Yamamoto J, et al. Molecular markers associated with lymph node metastasis in ductal adenocarcinoma by genome-wide expression profiling. *Cancer Sci* 101:259-66, 2010.
- 39) Tsujimoto H, Yamamoto J, et al. Minimally invasive surgery for resection of duodenal carcinoid tumors: endoscopic full-thickness resection under laparoscopic observation. *Surg Endosc* 24:471-5, 2010.
- 40) Ueno H, Kosuge T. Adjuvant treatments for resectable pancreatic cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:468-472, 2008.
- 41) Sano T, Kosuge T, et al. Reconstruction of hepatic venous tributaries using a Y-shaped left portal vein graft harvested from a resected left liver. *Hepatogastroenterology* 55:228-30, 2008.
- 42) Sano T, Kosuge T, et al. Hepatobiliary resection with inferior vena cava resection and reconstruction using an autologous patch graft for intrahepatic cholangiocarcinoma. *Langenbecks Arch Surg* 393:599-603, 2008.
- 43) Yoshikawa D, Kosuge T, et al. Clinicopathological and prognostic significance of EGFR, VEGF, and HER2 expression in cholangiocarcinoma. *Br J Cancer*. 98:418-425, 2008.
- 44) Ohnami S, Kosuge T, et al. His595Tyr polymorphism in the methionine synthase reductase (MTRR) gene is associated with pancreatic cancer risk. *Gastroenterology* 135:477-88, 2008.
- 45) Nara S, Kosuge T, et al. Minimally invasive intraductal papillary-mucinous carcinoma of the pancreas: clinicopathologic study of 104 intraductal papillary-mucinous neoplasms. *Am J Surg Pathol* 32:243-55, 2008.
- 46) Sano T, Kosuge T, et al. Prognosis of perihilar cholangiocarcinoma: hilar bile duct cancer versus intrahepatic cholangiocarcinoma involving the hepatic hilus. *Ann Surg Oncol* 15:590-9, 2008.
- 47) Kikuchi S, Kosuge T, et al. Expression and gene amplification of actinin-4 in invasive ductal carcinoma of the pancreas. *Clin Cancer Res* 14:5348-56, 2008.
- 48) Nara S, Kosuge T, et al. Preoperative evaluation of invasive and noninvasive intraductal papillary-mucinous neoplasms of the pancreas: clinical, radiological, and pathological analysis of 123 cases. *Pancreas* 38:8-16, 2009.
- 49) Sakamoto Y, Kosuge T, et al. Roux-en-Y reconstruction using staplers during pancreaticoduodenectomy: results of prospective preliminary study. *Surg Today* 39:32-37, 2009.
- 50) Yamamoto Y, Kosuge T, et al. Clinicopathological characteristics of intrahepatic cholangiocellular carcinoma presenting intrahepatic bile duct growth. *Journal of Surgical Oncology* 99:161-165, 2009.
- 51) Ojima H, Kosuge T, et al. Intraductal carcinoma component as a favorable prognostic factor in biliary tract carcinoma. *Cancer Sci* 100:62-70, 2009.
- 52) Kanno A, Egawa S, et al. Periostin, secreted from stromal cells, has biphasic effect on cell migration and correlates with the epithelial to mesenchymal transition of human pancreatic cancer cells. *Int J Cancer*. 122:2707-18., 2008.
- 53) Satoh K, Egawa S, et al. Up-

- regulation of MSX2 enhances the malignant phenotype and is associated with Twist 1 expression in human pancreatic cancer cells. *Am J Pathol* 172: 926-939., 2008.
- 54) Ishida M, Egawa S, et al. The PMAIP1 gene on Chromosome 18 is a candidate tumor suppressor gene in human pancreatic cancer. *Dig Dis Sci* 53: 2576-2582, 2008.
- 55) Miyazaki M, et al. Extensive hilar bile duct resection using a transhepatic approach for patients with hepatic hilar bile duct diseases. *Am J Surg* 196:125-129, 2008.
- 56) Miyazaki M. Risk factors for biliary tract and ampullary carcinomas and prophylactic surgery for these factors. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:15-24., 2008.
- 57) Nomura S, Miyazaki M, et al. FGF10/FGF2 signal induces cell migration and invasion in pancreatic cancer. *Brit J Cancer* 99:305-313., 2008.
- 58) Takano S, Miyazaki M, et al. Annexin II overexpression predicts rapid recurrence after surgery in pancreatic cancer patients undergoing gemcitabine-adjuvant chemotherapy. *Ann Surg oncol* 15:3157-3168., 2008.
- 59) Takano S, Miyazaki M, et al. Apolipoprotein C-1 maintains cell survival by preventing from apoptosis in pancreatic cancer cells. *Oncogene* 27:2810-2822., 2008.
- 60) Yoshitomi H, Miyazaki M, et al. Specific expression of endoglin(CD105)in endothelial cells of intratumoral blood and lymphatic vessels in pancreatic cancer. *Pancreas* 37:275-281., 2008.
- 61) Yoshitomi H, Miyazaki M, et al. A randomized phase II trial of adjuvant chemotherapy with urcil/tegafur and gemcitabine versus gemcitabine alone in patients with resected pancreatic cancer. *Cancer* 113:2448-2456., 2008.
- 62) Kuramochi H, Hatori T, et al. High intratumoral dihydropyrimidine dehydrogenase mRNA levels in pancreatic cancer associated with a high rate of response to S-1. *Cancer Chemother Pharmacol* 63:85-89, 2008.
- 63) Saiura A, et al. Intrahepatic cholangiocarcinoma: analysis of 44 consecutive resected cases including 5 cases with repeat resections (in press). *Am J Surg*, 2008.
- 64) Abe N, Sugiyama M, et al. Preoperative endoscopic pancreatic stenting: a novel prophylactic measure against pancreatic fistula after distal pancreatectomy. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:373-376, 2008.
- 65) Abe N, Sugiyama M, et al. Falciform ligament in pancreatoduodenectomy for protection of skeletonized and divided vessels. [Epub ahead of print]. *J Hepatobiliary Pancreat Surg*, 2009.
- 66) Sugiyama M, et al. Modified liver hanging maneuver with extraparenchymal isolation of the middle hepatic vein in left hepatectomy. [Epub ahead of print]. *J Hepatobiliary Pancreat Surg*, 2009.
- 67) Sugiyama M, et al. Pancreatic duct holder for facilitating duct-to-mucosa pancreatojejunostomy after pancreatoduodenectomy. *Am J Surg* 197:18-20, 2009.
- 68) Nakao A. Chapter 71, Pancreatic cancer: indications for resection. In: Beger HG, Warshaw AL, Büchler MW, eds. *The pancreas : an integrated textbook of basic science, medicine, and surgery*, 2nd Edition. Oxford: Blackwell Science, 2008, pp695-698.
- 69) Nomoto S, Nakao A, et al. Adverse prognosis of epigenetic inactivation in RUNX3 gene at 1p36 in human pancreatic cancer. *Br J Cancer* 98:1690-1695, 2008.
- 70) Yamada S, Nakao A, et al. Pancreatic cancer with paraaortic lymph node metastasis: a contraindication for radical surgery? *Pancreas* 38:e13-17, 2009.

- 71) Doi R, et al. A new technique for intraoperative continuous biliary drainage during pancreatoduodenectomy. *Digestive Surgery* 25:179-184, 2008.
- 72) Nagai, K., Doi R, et al. Prognostic value of metastin expression in human pancreatic cancer. *J Exp Clin Cancer Res* 28:9, 2008.
- 73) Nagai, K., Doi R, et al. Intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas: Clinicopathological characteristics and long-term follow-up after resection. *World J Surg* 32:271-278, 2008.
- 74) Neoptolemos, J.P. Doi R, et al., Adjuvant 5-fluorouracil and folinic acid vs observation for pancreatic cancer: composite data from the ESPAC-1 and -3(v1) trials. *Br J Cancer* 100: 246-50, 2009.
- 75) Doi R, et al. Surgery versus radiochemotherapy for resectable locally invasive pancreatic cancer: final results of a randomized multi-institutional trial. *Surg Today* 38:1021-1028, 2008.
- 76) Katagiri, Doi R, et al. Clinical significance of plasma metastin level in pancreatic cancer patients. *Oncol Rep* 21: 815-819, 2009.
- 77) Seo, S., Doi R, et al. Contribution of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography to the diagnosis of early pancreatic carcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:634-9, 2008.
- 78) Toyoda, E., Doi R, et al. Midkine promoter-based conditionally replicative adenovirus therapy for midkine-expressing human pancreatic cancer. *J Exp Clin Cancer Res* 27:30, 2008.
- 79) Toyoda, E., Doi R, et al. Adenovirus vectors with chimeric type 5 and type 35 fiber proteins exhibit enhanced transfection of human pancreatic cancer cells. *Int J Oncol* 33: 1141-7, 2008.
- 80) Yamauchi, J., Doi R, et al. Clinical outcome of gemcitabine/S-1 combination therapy for advanced pancreatic cancer. *Pancreas* 36:327-8, 2008.
- 81) Miyake K, Shimada M, et al. Expression of hypoxia-inducible factor-1 alpha, histone deacetylase 1, and metastasis-associated protein 1 in pancreatic carcinoma: correlation with poor prognosis with possible regulation. *Pancreas*. 36:e1-9., 2008.
- 82) Egami T, Tanaka M, et al. Radiation enhances adenoviral gene therapy in pancreatic cancer via activation of cytomegalovirus promoter and increased adenovirus uptake. *Clinical Cancer Research* 14:1859-67, 2008.
- 83) Ohhashi S, Tanaka M, et al. Midkine mRNA Is Overexpressed in Pancreatic Cancer. *Dig Dis Sci*. 21, 2008.
- 84) Ohhashi S, Tanaka M, et al. Down-regulation of deoxycytidine kinase enhances acquired resistance to gemcitabine in pancreatic cancer. *Anticancer Research* 28:2205-2212, 2008.
- 85) Yu J, Tanaka M, et al. LIM only 4 is overexpressed in late stage pancreatic cancer. *Mol Cancer* 2008:93-102
- 86) Suyama K, Baba H, et al. C/EBP homologous protein is crucial for the acceleration of experimental pancreatitis. *BBRC* 367:176-182, 2008.
- 87) Takamori H, Baba H, et al. Long-term Outcomes of extended radical resection combined with intraoperative radiation therapy for pancreatic adenocarcinoma. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 15:603-607, 2008.
- 88) Hashimoto D, Baba H, et al. Involvement of autophagy in trypsinogen activation within the pancreatic acinar cells. *J Cell Biol* 181: 1065-72, 2008.
- 89) Hirota M, Baba H, et al. Percutaneous

- transfistulous pancreatic duct drainage and interventional pancreatojejunostomy as a treatment option for intractable pancreatic fistula. *Am J Surg* 196:280-4, 2008.
- 90) Koga Y, Baba H, et al. ORP5 (oxysterol-binding protein-related protein-5) is related to invasion and poor prognosis in pancreatic cancer. *Cancer Sci* 99:2387-94, 2008.
- 91) Yoshida T, Baba H, et al. The expression patterns of Epiplakin 1 in pancreas, pancreatic cancer and regenerating pancreas. *Genes to Cells* 13: 667-78, 2008.
- 92) Chijiwa K, et al. Prospective Randomized Controlled Study of Gastric Emptying Assessed by ¹³C-Acetate Breath Test After Pylorus-Preserving Pancreaticoduodenectomy. Comparison between Antecolic and Vertical Retrocolic Duodenojejunostomy. *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery* 16:49-55, 2009.
- 93) Matsuyama Y and Yamaguchi T. Estimation of the marginal survival time in the presence of dependent competing risks using inverse probability of censoring weighted (IPCW) methods. *Pharmaceutical Statistics* 7: 202-214, 2008.
- 94) Tanaka Y, Matsuyama Y, and Ohashi Y. for the MEGA Study Group. Estimation of treatment effect adjusting for treatment changes using the intensity score method: an application to a large primary prevention study for coronary events (MEGA study). *Statistics in Medicine* 27:1718-1733, 2008.
- 95) Uemura K, Matsuyama Y, and Ohashi Y. A modified conditional power approach for increasing the sample size based on an interim estimate of treatment difference. *Japanese Journal of Biometrics* 29: 19-34, 2008.
- 96) Yoshida S, Matsuyama Y, Ohashi Y, and Ueshima H. A Poisson mixed effects model for investigating the exposure-by-cohort interaction: A Gibbs sampling approach. *Japanese Journal of Biometrics* 29: 61-74, 2008.
- 97) Matsubara, J., Ueno, H., et al. Ultrasound-guided percutaneous pancreatic tumor biopsy in pancreatic cancer: a comparison with metastatic liver tumor biopsy, including sensitivity, specificity, and complications. *J Gastroenterol*, 43:225-232, 2008.
- 98) Tanaka, T., Ueno, H., et al. Prognostic factors in Japanese patients with advanced pancreatic cancer treated with single-agent gemcitabine as first-line therapy. *Jpn J Clin Oncol*, 38:755-761, 2008.
- 99) Ueno H, Kosuge T. Adjuvant treatments for resectable pancreatic cancer. *J Hepatobiliary Pancreat Surg*. 15:468-72, 2008.
- 100) Morizane, C., Ueno, H., et al. A phase II study of S-1 on gemcitabine-refractory metastatic pancreatic cancer. *Cancer. Chemother Pharmacol*, 63:313-319, 2009.
- 101) Takezako, Y., Ueno, H., et al. Phase II study of cisplatin, epirubicin and continuous infusion of 5-fluorouracil in patients with advanced intrahepatic cholangiocellular carcinoma. *Hepato-Gastroenterol*, 55:1380-1384, 2008.
- 102) Ueno H, et al. Homozygous CDA*3 is a major cause of life-threatening toxicities in gemcitabine-treated Japanese cancer patients. *Br J Cancer*, 2008.
- 103) Takahashi Y, Kosuge T, et al. Prognostic value of tumor architecture, tumor-associated vascular characteristics, and expression of angiogenic molecules in pancreatic endocrine tumors. *Clin Cancer Res* 13:187-196, 2007.
- 104) Yokoo H, Kosuge T, et al. Protein expression associate with early intrahepatic recurrence of

- hepatocellular carcinoma after curative surgery. *Cancer Science* 98:665-673, 2007.
- 105) Ishibashi Y, Kosuge T, et al. Invasive biliary cystic tumor without ovarian-like stroma. *Pathology International* 57:794-798, 2007.
- 106) Shimada K, Kosuge T, et al. Clinical impact of the surgical margin status in hepatectomy for solitary mass-forming type intrahepatic cholangiocarcinoma without lymph node metastases. *Journal of Surgical Oncology* 96:160-165, 2007.
- 107) Sano T, Kosuge T, et al. Changing trends in surgical outcomes after major hepatobiliary resection for hilar cholangiocarcinoma: a single center experience over 25 years. *J Hepatobiliary Pancreat surg* 14:455-462, 2007.
- 108) Takahashi Y, Kosuge T, et al. Prognostic value of tumor architecture, tumor-associated vascular characteristics, and expression of angiogenic molecules in pancreatic endocrine tumors. *Clin Cancer Res* 13:187-196, 2007.
- 109) Loukopoulos P, Kosuge T, et al. Genome-wide array-based comparative genomic hybridization analysis of pancreatic adenocarcinoma: Identification of genetic indicators that predict patient outcome. *Cancer Science* 98:392-400, 2007.
- 110) Shimada K, Kosuge T, et al. Surgical outcomes of the mass-forming plus periductal infiltrating types of intrahepatic cholangiocarcinoma: a comparative study with the typical mass-forming type of intrahepatic cholangiocarcinoma. *World J Surg* 31:2016-2022, 2007.
- 111) Sano T, Kosuge T, et al. Prognosis of perihilar cholangiocarcinoma: hilar bile duct cancer versus intrahepatic cholangiocarcinoma involving the hepatic hilus. *Ann Surg Oncol*. 15:590-599, 2008.
- 112) Nara S, Kosuge T, et al. Minimally invasive intraductal papillary-mucinous carcinoma of the pancreas: clinicopathologic study of 104 intraductal papillary-mucinous neoplasms. *Am J Surg Pathol*. 32:243-55, 2008.
- 113) Yoshikawa D, Kosuge T, et al. Clinicopathological and prognostic significance of EGFR, VEGF, and HER2 expression in cholangiocarcinoma. *Br J Cancer*. 98:418-425, 2008.
- 114) Hirata K, Egawa S, et al. Current status of surgery for pancreatic cancer. *Dig Surg* 24:137-147, 2007.
- 115) Kitagami H, Egawa S, et al. Acinar cell carcinoma of the pancreas. Clinical analysis of 115 patients from pancreatic cancer registry of Japan Pancreas Society. *Pancreas* 35:42-46, 2007.
- 116) Matsuno S, Egawa S, et al. R0 resection for ductal pancreatic cancer – Japanese experience. *Am J Surg* 194:110-114, 2007.
- 117) Ishida M, Egawa S, et al. Elucidation of the relationship of BNIP3 expression to gemcitabine chemosensitivity and prognosis. *World J Gastroenterol* 13:4593-4597, 2007.
- 118) Ishida M, Egawa S, et al. Intraductal papillary-mucinous adenocarcinoma in the remnant pancreas after pancreatoduodenectomy for cancer of Vater's papilla associated with intraductal papillary-mucinous adenoma. *Journal of hepato-biliary-pancreatic surgery* 14:522-525, 2007.
- 119) Ishida M, Egawa S, et al. Characteristic clinicopathological features of the types of intraductal papillary-mucinous neoplasms of the pancreas. *Pancreas* 35:348-352, 2007.
- 120) Wu Y, Yamamoto J, et al. Locally advanced intrahepatic cholangiocarcinoma successfully resected after transcatheter arterial chemoembolization with degradable

- starch microspheres: report of a case. *Hepatogastroenterology*. 54:1345-1347, 2007.
- 121) Yamamoto J, et al. Fujita R, Sasaki K.. CT and MRI findings with contrast enhancement of small pancreatic adenocarcinoma in the late phase. *Hepatogastroenterology*. 54:389-392, 2007.
- 122) Watanabe I, Nakao A, et al. HEffects of tumor selective replication-competent herpes viruses in combination with gemcitabine on pancreatic cancer. *Cancer Chemotherapy and Pharmacology* 61:875-882, 2008.
- 123) Fujii T, Nakao A, et al. Analysis of clinicopathological features and predictors of malignancy in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas. *Hepatogastroenterology* 54: 272-277, 2007.
- 124) Yamada S, Nakao A, et al. Clinical implications of peritoneal cytology in potentially resectable pancreatic-cancer positive peritoneal cytology may not confer an adverse prognosis. *Annals of Surgery* 246:254-258, 2007.
- 125) Nakao A, Fernandez-Cruz, L.. Pancreatic head resection with segmental duodenectomy safety and long-term results. *Annals of Surgery* 246:923-928, 2007.
- 126) Yamada S, Nakao A, et al. A proposal of an appropriate surgical approach for cancer of the ampulla of vater: retrospective analysis of 73 resected cases. *Hepatogastroenterology* 54:10-14, 2007.
- 127) Nakao A, et al. Clinical experiment of mutant herpes simplex virus HF10 therapy for cancer. *Current Cancer Drug Targets* 7:169-174, 2007.
- 128) Doi, R., et al. Prognostic implication of para-aortic lymph node metastasis in resectable pancreatic cancer. *World J Surg*. 31:147-154, 2007.
- 129) Lyshchik, A., Doi, R., et al. Expression of glucose transporter-1, hexokinase-II, proliferating cell nuclear antigen and survival of patients with pancreatic cancer. *Cancer Invest*. *Cancer Invest*. 25:154-162, 2007.
- 130) Mori, T., Doi, R., et al. Effect of the XIAP inhibitor embelin on TRAIL-induced apoptosis of pancreatic cancer cells. *J Surg Res* 142:281-286, 2007.
- 131) Nagai, K., Doi, R., et al. Intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas: Clinicopathological characteristics and long-term follow-up after resection. *World J Surg* 32:271-278, 2008.
- 132) Nakahira S, Monden M, et al. Involvement of ribonucleotide reductase M1 subunit overexpression in gemcitabine resistance of human pancreatic cancer. *Int J Cancer* 120:1355-1363, 2007.
- 133) Tsujie M, Monden M, et al. Human equilibrative nucleoside transporter 1, as a predictor of 5-fluorouracil resistance in human pancreatic cancer. *Anticancer Res*. 27:2241-2249, 2007.
- 134) Miyake K, Shimada M, et al. Combination therapy of human pancreatic cancer implanted in nude mice by oral fluoropyrimidine anticancer agent (S-1) with interferon-alpha. *Cancer Chemother Pharmacol* 59:113-126, 2007.
- 135) Miyake K, Shimada M, et al. Role of thymidine phosphorylase and orotate phosphoribosyltransferase mRNA expression and its ratio to dihydropyrimidine dehydrogenase in the prognosis and clinicopathological features of patients with pancreatic cancer. *Int J Clin Oncol* 12:111-119, 2007.
- 136) Ohuchida J, Tanaka M, et al. Pylorus-preserving pancreatoduodenectomy: preoperative pancreatic function and outcome. *Pancreas* 54:913-916, 2007.
- 137) Yamaguchi H, Tanaka M, et al. Fascin overexpression in intraductal

- papillary mucinous neoplasms (adenomas, borderline neoplasms, and carcinomas) of the pancreas, correlated with increased histological grade. *Mod Pathol* 20:552-561, 2007.
- 138) Ohuchida K, Tanaka M.et al.S100A6 is increased in a stepwise manner during pancreatic carcinogenesis: clinical value of expression analysis in 98 pancreatic juice samples. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*. 16:649-654, 2007.
- 139) Yamada D, Tanaka M.et al. Increased expression of ADAM 9 and ADAM 15 mRNA in pancreatic cancer. *Anticancer Res* 27:793-799, 2007.
- 140) Miyasaka Y, Tanaka M.et al. The role of the DNA damage checkpoint pathway in intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas. *Clin Cancer Res*. 13:4371-4377, 2007.
- 141) Nakamura M, Tanaka M.et al. Anti-patched-1 antibodies suppress hedgehog signaling pathway and pancreatic cancer proliferation. *Anticancer Res*. 27:3743-3748, 2007.
- 142) Hirota M, Baba H.et al. Local pancreatic resection with preoperative endoscopic transpapillary stenting. *Am J Surg* 194:308-310, 2007.
- 143) Kamohara H, Baba H.et al. Induction of interleukin-8(CXCL-8) by tumor necrosis factor- α and leukemia inhibitory factor in pancreas carcinoma cells; Impact of CXCL-8 as an autocrine growth factor. *Int J Oncol* 31:627-32, 2007.
- 144) Minagawa M, Matsuyama Y.et al. Simplified staging system for predicting the prognosis of patients with resectable liver metastasis: development and validation. *Arch Surg*. 142:269-276, 2007.
- 145) Tanaka Y, Matsuyama Y, and Ohashi Y. for the MEGA Study Group.. Estimation of treatment effect adjusting for treatment changes using the intensity score method: application to a large primary prevention study for coronary events (MEGA study). *Statistics in Medicine*, 2008.
- 146) Matsuyama Y and Yamaguchi T.. Estimation of the marginal survival time in the presence of dependent competing risks using inverse probability of censoring weighted (IPCW) methods. *Pharmaceutical Statistics*, 2008.
- 147) Ikai I, Matsuyama Y.et al. Report of the 17th nationwide follow-up survey of primary liver cancer in Japan. *Hepatology Research* 37:676-691, 2007.
- 148) Minagawa M, Matsuyama Y.et al. Simplified staging system for predicting the prognosis of patients with resectable liver metastasis: Development and validation. *Archives of Surgery* 142:269-276, 2007.
- 149) Minagawa M, Matsuyama Y.et al. Staging of hepatocellular carcinoma: Assessment of the Japanese TNM and AJCC/UICC TNM systems in a cohort of 13,772 patients in Japan. *Annals of Surgery* 245:909-922, 2007.
- 150) Makuuchi M, Matsuyama Y, et al. Development of evidence-based clinical guidelines for the diagnosis and treatment of hepatocellular carcinoma in Japan. *Hepatology Research* 38:37-51, 2008.
- 151) Yoshida M, Matsuyama Y, and Ohashi Y for the MEGA Study Group.. Estimation of treatment effect adjusting for dependent censoring using the IPCW method: an application to a large primary prevention study for coronary events (MEGA study). *Clinical Trials* 4:318-328, 2007.
- 152) Ueno H, et al. A phase II study of weekly irinotecan as first-line therapy for patients with metastatic pancreatic cancer. *Cancer Chemother Pharmacol* 59:447-454, 2007.
- 153) Ueno H, et al. Phase II study of combination chemotherapy with

- gemcitabine and cisplatin for patients with metastatic pancreatic cancer. *Jpn J Clin Oncol.* 37:515-520, 2007.
- 154) Ueno H, et al. et al. Pharmacogenomics of gemcitabine: Can genetic studies lead to tailor-made therapy?. *Br J Cancer (minireview)* 97:145-151, 2007.
- 155) Yonemori K, Ueno H, et al. FP therapy for controlling malignant ascites in advanced pancreatic cancer patients. *Hepatogastroenterology.* 54:2383-6., 2007.
- 156) Hamaguchi T, Ueno H, et al. A phase I and pharmacokinetic study of NK105, a paclitaxel-incorporating micellar nanoparticle formulation. *Br J Cancer.* 97:170-176, 2007.
- 157) Ikeda M, Ueno H, et al. A phase I trial of S-1 with concurrent radiotherapy for locally advanced pancreatic cancer. *Br J Cancer.* 96:1650-1655, 2007.
- 158) Abe N, Sugiyama M, et al. Wrapping of skeletonized and divided vessels using the falciform ligament in distal pancreatectomy. *Am J Surg* 194(1):94-7, 2007.
- 159) Oida Y, Imaizumi T, et al. FDG-PET and diffusion-weighted MR imaging appearance in retroperitoneal Castleman's disease: a case report. *Clin Imaging* 32:144-146, 2008.
- 160) Miyazaki M, et al. Combined vascular resection in operative resection for hilar cholangiocarcinoma: Does it work or not?. *Surgery* 141:581-588, 2007.
- 161) Kobayashi S, Miyazaki M, et al. Rapamycin, a specific inhibitor of the mammalian target of rapamycin, suppresses lymphangiogenesis and lymphatic metastasis. *Cancer Sci* 98:726-733, 2007.
- 162) Ishihara S, Miyazaki M, et al. Status of surgical treatment of biliary tract cancer. *Dig Surg* 24:131-136, 2007.
- 163) Shimizu H, Miyazaki M, et al. Aggressive surgical approach for stage IV gallbladder carcinoma based on Japanese society of biliary surgery classification. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 14:358-365, 2007.
- 164) Miyazaki M, et al. Recent advance in the treatment of hilar cholangiocarcinoma: hepatectomy with vascular resection. *J Hepatobiliary Pancreat Surg* 14:463-468, 2007.
- 165) Shimizu Y, Miyazaki M, et al. CCAT/enhancer binding protein- β promotes the survival of intravascular rat pancreatic tumor cells via antiapoptotic effects. *Cancer Sci* 98:1706-1713, 2007.
- 166) Ohuchida, J., Chijiwa, K., et al. Pylorus-preserving Pancreatoduodenectomy: Preoperative Pancreatic Function and Outcome. *Hepato-Gastroenterology* 54:913-916, 2007.
- 167) Chijiwa, K., et al. Vertical Retrocolic Duodenojejunostomy Decreases Delayed Gastric Emptying after Pylorus Preserving Pancreatoduodenectomy. *Hepato-Gastroenterology* 54:1874-1877, 2007.
- 168) Kai, M., Chijiwa, K., et al. A Curative Resection Improve the Postoperative Survival Rate Even in Patients with Advanced Gallbladder Carcinoma. *Journal of Gastrointestinal Surgery* 11:1025-1032, 2007.
- 169) Chijiwa, K., et al. Outcome of Radical Surgery for Stage IV Gallbladder Carcinoma. *Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery* 14:345-350, 2007.

日本語論文

- 1) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 膵癌に対する adjuvant/neoadjuvant. *臨床外科* 63:1747-1751, 2008.
- 2) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 特集: 膵癌診療最前線 -新たな抗癌薬により長期生存を目指す- 膵癌に対する術前・術後補助療法. *内科* 102:720-724, 2008.

- 3) 江崎 稔, 小菅智男, 他. 肝門型肝内胆管癌の切除成績. 肝胆膵 57:107-113, 2008.
- 4) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 特集: 膵癌の外科治療は進歩したか □補助療法 3.術後補助療法の現状. 外科 70:660-664, 2008.
- 5) 岩佐悟, 小菅智男, 他. 膵癌 切除不能膵癌の化学療法. 外科治療 98:202-210, 2008.
- 6) 上野秀樹, 小菅智男, 他. 特集: 膵炎・膵癌 up to date—膵癌編 切除可能膵癌に対する補助療法. Pharma Medica 26:55-59, 2008.
- 7) 江崎 稔, 小菅智男, 他. 胆嚢摘出後に胆嚢癌(ss 以深)と診断された場合の適切な二期的外科手術はいかなるものか? 肝胆膵 58:87-94, 2009.
- 8) 江川新一, 中尾昭公, 羽鳥隆, 田中雅夫, 他. 膵癌登録報告2007ダイジェスト. 膵臓 23:105-123, 2008.
- 9) 江川新一. 膵癌. 予後. 下瀬川徹編. 膵疾患へのアプローチ 中外医学社, 東京 2008, pp240-247.
- 10) 羽鳥隆, 今泉俊秀, 他. PMN切除術後の長期成績. 肝胆膵 56:905-910, 2008.
- 11) 山本順司, 斎浦明夫, 他. 【膵癌の外科治療は進歩したか】 膵体尾部癌 膵体尾部癌の外科治療. 外科 70: 638-643. 2008.
- 12) 今泉俊秀, 飛田浩輔, 他. 【膵炎・膵癌 up to date;膵癌編】 膵癌に対する外科治療. Pharma Medica 26: 51-53, 2008.
- 13) 種田靖久, 今泉俊秀, 他. 膵頭十二指腸切除術 外科 70:77-84, 2008.
- 14) 飛田浩輔, 今泉俊秀, 他. 消化器がんの化学療法—外科の立場から膵がん. MEDICO 39:15-17, 2008.
- 15) 飛田浩輔, 今泉俊秀, 他. stage IV 膵癌に対する治療戦略 Annual Review 2008. 消化器 :237-242, 2008.
- 16) 杉本博行, 中尾昭公. 上腸間膜静脈・脾静脈合流部浸潤例における門脈合併切除を伴う膵頭十二指腸切除-特に脾静脈非再建の血行動態について- 胆と膵 30:59-63, 2009.
- 17) 中尾昭公, 他. 幽門輪温存膵頭十二指腸切除術-Isolated PPPDを中心に-. 消化器外科 31:2029-2037, 2008.
- 18) 中尾昭公, 他. IPMNに対する膵頭十二指腸第II部切除術. 手術 63:21-25, 2009.
- 19) 中尾昭公. 膵癌ガイドラインの検証-欧米との比較-. 癌の臨床 54:441-445, 2008.
- 20) 金住直人, 中尾昭公. 膵癌「概念・定義と疫学」. 下瀬川徹編. 膵炎・膵癌. 大阪: 最新医学社, 2008, pp159-167.
- 21) 杉本博行, 中尾昭公. 膵臓癌. 菅野健太郎, 上西紀夫, 井廻道夫編. 消化器疾患最新の治療2009-2010. 東京: 南江堂, 2009, pp408-412.
- 22) 山田 豪, 中尾昭公. 膵癌における腹腔洗浄細胞診. 上西 紀夫, 中尾昭公 編. 消化器癌の外科治療. 東京: 中外医学社, 2008, pp172-174.
- 23) 土井隆一郎. 特集/膵癌の外科治療は進歩したか. 膵癌外科治療の臨床試験について. 外科 70 : 585-591, 2008.
- 24) 土井隆一郎, 他. 特集/膵縮小手術の最前線. 脾温存尾側膵切除術. 手術 :51-56, 2009.
- 25) 土井隆一郎. 膵癌stage Ivaの治療方針. 消化器癌の外科治療, 2. 肝・胆・膵, こんなときどうするQ&A. 上西紀夫, 中尾昭公編. 東京: 中外医学社, 2008, pp167-171.
- 26) 土井隆一郎. 膵部分切除術. Digestive Surgery Now. No. 4 胆・膵外科標準手術. 操作のコツとトラブルシューティング. 上西紀夫, 後藤満一, 杉山政則, 渡邊昌彦編. 東京: メジカルビュー社, 2009, pp102-115.
- 27) 山口幸二, 田中雅夫. 膵管上皮内腫瘍と膵癌. Pharma Medica 26:21-25, 2008.
- 28) 田中雅夫. 膵癌診療ガイドラインと臨床. 内科 102:633-639, 2008.
- 29) 甲斐真弘, 千々岩一男, 他. 胆汁・膵液から何が分かるか?—採取のノウハウから臨床的意義まで—.

- 胆汁中腫瘍マーカーと胆道疾患.
胆と膵 29:717-722, 2008.
- 30) 大内田次郎, 千々岩一男, 他. 切除・非切除膵癌に対するGemcitabineを中心とした化学療法の有効性. 日本消化器外科学会雑誌 41:717-722, 2008.
- 31) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 外科治療 - 肝外胆管切除は必要か. 外科 69:1301-1306, 2007.
- 32) 島田和明, 小菅智男, 他. 膵の腫瘍性疾患 膵体尾部癌. 外科治療 96:290-294, 2007.
- 33) 小菅智男, 他. 胃切除を伴う膵頭十二指腸切除. 手術 61:835-840, 2007.
- 34) 尾島英知, 小菅智男, 他. 肝門部胆管癌の進展様式と肝臓側切除断端の臨床病理学的特徴. 消化器外科 30:619-627, 2007.
- 35) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 進行胆嚢癌手術における肝外胆管切除. 胆と膵 28:579-582, 2007.
- 36) 阪本良弘, 小菅智男, 他. 中下部胆管癌に対するPDの予後因子、至適手術. 外科 69:890-896, 2007.
- 37) 上野秀樹, 小菅智男. 最新 癌の化学治療マニュアル 膵癌. 外科 69:1049-1054, 2007.
- 38) 馬屋原博, 小菅智男, 他. 膵臓外科の新たな展開: 膵癌に対する補助療法の意義 放射線治療. 臨床外科 62:1709-1718, 2007.
- 39) 上野秀樹, 小菅智男, 他. 肝胆膵がんと化学療法のすべて: 悪性膵腫瘍の化学療法 膵管癌の化学療法 病期による化学療法の選択 膵癌切除後の補助療法. 肝・胆・膵 55:1067-1075, 2007.
- 40) 森実千種, 小菅智男, 他. 膵癌の化学療法. 外科治療 97:285-291, 2007.
- 41) 上野秀樹, 小菅智男, 他. 特集: 膵炎・膵癌up to date-膵癌編 切除可能膵癌に対する補助療法. Pharm a Medica 26:55-59, 2008.
- 42) 元井冬彦, 江川新一, 他. MDCTによる術前Stagingの評価. 胆と膵 28:89-95, 2007.
- 43) 北上英彦, 江川新一, 他. 膵腺房細胞癌の治療. 消化器画像 9:19-25, 2007.
- 44) 福田 晃, 羽鳥 隆, 他. 膵体尾部切除術後遠隔時の膵機能に関する検討. 胆膵の生理機能 23:29-32, 2007.
- 45) 羽鳥 隆, 他. 膵管内乳頭腫瘍. 外科治療 96:628-631, 2007.
- 46) 羽鳥 隆, 他. 福田 晃, 杉木孝章, 松浦裕史, 藤田 泉, 今泉俊秀, 山本雅一. 膵空腸吻合no stent法の適応と結果. 外科 69:924-928, 2007.
- 47) 羽鳥 隆, 他. こうするIPMNの外科手術後の経過観察. 消化器内視鏡 19:1121-1126, 2007.
- 48) 羽鳥 隆, 他. 杉木孝章, 藤田 泉, 松浦裕史, 古川 徹, 福田 晃, 今泉俊秀, 山本雅一. 分枝型IPMNの長期経過. 胆と膵 28:631-636, 2007.
- 49) 林 和彦, 羽鳥 隆, 他. 膵癌術前化学療法の意義. 臨外 62:1697-1701, 2007.
- 50) 山本順司, 他. 最新 肝胆膵手術アトラス 前区域切除術、後区域切除術、中央2区域切除術. 手術 62:693-700, 2007.
- 51) 中尾昭公. 外科学の進歩と今後の展望-膵臓外科. 外科 69:428-433, 2007.
- 52) 金住直人, 中尾昭公. 膵癌手術における血管合併切除の意義. 外科治療 4:829-830, 2007.
- 53) 竹田 伸, 中尾昭公. 膵癌術後補助化学療法の現状. 膵臓 22:26-29, 2007.
- 54) 山田 豪, 中尾昭公. 標準治療としての膵頭十二指腸切除の適応と治療成績. 肝胆膵 54:795-800, 2007.
- 55) 杉本博行, 中尾昭公. 膵癌の手術適応の変遷. 臨床外科 62:1677-1682, 2007.
- 56) 金住直人, 中尾昭公. 膵頭十二指腸切除術. 手術 61:1765-1770, 2007.
- 57) 竹田 伸, 中尾昭公. 局所進行切除不能膵癌に対する治療. 肝胆膵 55:1093-1098, 2007.
- 58) 竹田 伸, 中尾昭公. 『膵癌診療

- ガイドライン』の検証—欧米との比較—。消化器外科 30:1863-1869, 2007.
- 59) 野本周嗣, 中尾昭公. 膵頭十二指腸切除術. 外科 69:1728-1731, 2007.
- 60) 中尾昭公, 他. アンスロン門脈カテーテルバイパス法を用いた門脈切除再建術. 臨床外科 62:761-766, 2007.
- 61) 杉本博行, 中尾昭公. 血管合併切除術.. 消化器外科 30:1757-1766, 2007.
- 62) 杉本博行, 中尾昭公. 肝胆膵手術: 膵切除術. 外科治療 98:47-51, 2007.
- 63) 土井隆一郎, 他. 標準的幽門輪温存膵頭十二指腸切除術. 手術 61:841-850, 2007.
- 64) 土井隆一郎, 他. 膵癌の診断と治療/膵癌の早期診断は可能か? FDG-PET. 外科治療 97:240-246, 2007.
- 65) 土井隆一郎, 他. 膵癌診断におけるFDG-PETの有用性. 消化器画像 9:553-562, 2007.
- 66) 中森正二, 門田守人, 他. 膵癌化学療法におけるgemcitabine有効性向上のための基礎的・臨床的検討. 膵臓 22:21-25, 2007.
- 67) 工藤正俊, 松山 裕, 他. 日本肝癌研究会追跡調査委員会. 第17回全国原発性肝癌追跡調査報告 (2002~2003) 肝臓. 48: 117-140, 2007.
- 68) 國土典宏, 松山 裕, 他. 肝臓手術と膵臓手術における特殊縫合糸使用実態に関する多施設調査—経済的側面からの考察—. 日本臨床外科学雑誌 68: 1077-1081, 2007.
- 69) 上野秀樹, 他. セカンドオピニオン実践ガイド: 膵癌. Medical Practice. 24:156-162, 2007.
- 70) 上野秀樹, 他. 消化器系の癌: 胆道癌に対する化学療法. 最新医学. 62:152-160, 2007.
- 71) 上野秀樹, 他. 進行膵癌に対する全身化学療法は? 肝胆膵疾患治療のエビデンス. 文光堂. 294-296, 2007.
- 72) 上野秀樹, 他. 最新 癌の化学療法マニュアル 膵癌. 外科 69:1049-1054, 2007.
- 73) 上野秀樹, 他. 切除可能膵癌に対する補助療法. Pharma Medica. 26:55-59, 2008.
- 74) 上野秀樹, 他. 膵癌切除例の補助療法. 肝胆膵. 55:1067-1075, 2007.
- 75) 飛田浩輔, 今泉俊秀, 他. stage IV 膵癌に対する治療戦略 Annual Review 2008. 消化器 :237-242, 2008.
- 76) 今泉俊秀, 他. 膵癌に対する外科治療. Pharma Medica 26:51-53, 2008.
- 77) 今泉俊秀, 他. 膵再建術をめぐる提言. 膵臓 22:609-619, 2007.
- 78) 種田靖久, 今泉俊秀, 他. 膵頭十二指腸切除術. 外科 70:77-84, 2008.
- 79) 種田靖久, 今泉俊秀, 他. 膵嚢胞性病変に対する膵分節切除後の膵膵吻合再建術. 医薬の門 47:517-518, 2007.
- 80) 飛田浩輔, 今泉俊秀, 他. 局所進行膵癌に対する外科治療の現況. 外科治療 96:304-309, 2007.
- 81) 飛田浩輔, 今泉俊秀, 他. 消化器がんの化学療法—外科の立場から 膵がん. MEDICO 39:15-17, 2008.
- 82) 飛田浩輔, 今泉俊秀, 他. 病態局在進展形式により4タイプ分けした膵頭十二指腸切除術. 胆と膵 28:417-422, 2007.
- 83) 宮崎 勝, 他. 動脈浸潤を伴う高度進行膵体部癌手術. 消化器外科 30:83~88, 2007.
- 84) 宮崎 勝, 他. 門脈浸潤膵癌の手術適応と治療成績. 臨床外科 62:1683-1689, 2007.
- 85) 高原 善博, 宮崎 勝, 他. 術後経過から見た膵悪性腫瘍に対する膵全摘術の適応と意義. 胆膵の生理機能 22:47-52, 2007
- 86) 甲斐真弘, 千々岩一男, 他. 特集II 「胆道癌の早期診断と治療の選択」: 4. 進行胆嚢癌に対する外科的根治切除の有用性: 進行胆嚢癌にたいする外科的根治切除の有用性. 消化器科 45:321-329, 2007.
- 87) 甲斐真弘, 千々岩一男, 他. 特集: 知っておくべき胆嚢癌の診療方針 III. 外科治療 4. 胆嚢癌に対するS4a+S5切除のエビデンス. 外科 69:1282-1290, 2007.

2. 学会発表
国際学会

- 1) Egawa S, et al. Combined resection of extrapancreatic nerve plexus may improve the survival after pancreaticoduodenectomy for small pancreatic cancer. Pancreas Club, 2008/5, サンディエゴ, USA.
- 2) S. Egawa, A. Nakao, T. Hatori, M. Tanaka, et al. Distance of Lymph Node Metastases Correlates with Survival after Pancreatectomy for Pancreatic Head Cancer. IAP-EPC Joint Meeting, 2008/6, ウーズ, ポーランド
- 3) Miyazaki M. Aggressive surgical resection for advanced intrahepatic cholangiocarcinoma following preoperative down-staging chemotherapy. 18th World Congress of IASGO, 2008/10, Istanbul, Turkey.
- 4) Hatori T, et al. Four successful cases of duodenum preserving total pancreatectomy. Joint Meeting of the European Pancreatic Club (EPC) and the International Association of Pancreatology (IAP). 2008/6, Poland.
- 5) Nakao A. Clinical and oncological problems in pancreatic cancer surgery. Technical Challenges in Hepato-Pancreato-Biliary Surgery II Scientific Meeting. 2008/4, Istanbul, Turkey.
- 6) Nakao A. Techniques in pancreatic resection. The 33rd Annual Scientific Meeting of The Royal College of Surgeons of Thailand., 2008/7, Pattaya, Thailand.
- 7) Nakao A. Pancreatoduodenectomy for pancreatic head cancer. 18th World Congress of IASGO. 2008/10, Istanbul, Turkey.
- 8) Tanaka M. Pancreatic Cancer in Japan : Current State of the Art and Proposal of a New Clue to Early Diagnosis. The First International Conference for Treatment of Pancreatic Cancer 2008/6, 台南市, 台湾
- 9) Ueno H, et al. Association of SNPs in ABCC1 gene with overall survival in stage IV pancreatic adenocarcinoma patients treated with gemcitabine monotherapy. ASCO 2008, 2008/6, Chicago, USA.
- 10) T. Kosuge, H. Ueno, Y. Matsuyama, J. Yamamoto, A. Nakao, S. Egawa, R. Doi, M. Monden, T. Hatori, M. Tanaka. A randomized phase III study comparing gemcitabine monotherapy with observation in patients with resected pancreatic cancer. 14th European Cancer conference, 2007/9, バルセロナ, スペイン
- 11) Nakamura H, Egawa S, et al.. Ectopic expression of PIK3CD in human cancer cell lines and human lung carcinoma. AACR Annual Meeting 2007, 2007/4, ロスアンゼルス, USA.
- 12) Egawa S, et al. Staging of pancreatic endocrine tumors in Japan. SSAT, 2007/5, ワシントン, USA.
- 13) Egawa S, et al. Pacritaxel as a second-line chemotherapy after failure of gemcitabine. Pancreas in Paradise 2007, 2007/10, シドニー, オーストラリア.
- 14) Nakao A. Clinical and oncological problems in pancreatic cancer surgery. 10th International Postgraduate Course, 5th School of Surgical Oncology Course KKU and IASGO Joint Project. 2007/1, Kao Yai, Thailand.
- 15) Nakao A.. 10th International Postgraduate Course, 5th School of Surgical Oncology Course KKU and IASGO Joint Project. A. Middle pancreatectomy for intraductal papillary mucinous neoplasms (IPMN) of the pancreatic body. 2007/1, Kao Yai, Thailand.
- 16) Nakao A. Lymph node dissection in CA pancreas. Joint Scientific Meeting the Royal College of Surgeons of Thailand and the Royal Australasian College of Surgeons and the 32nd Annual Scientific Meeting of